

通信

東京都は、令和元年8月に「TOKYO Data Highway基本戦略」を策定し、世界最速の高速モバイルインターネット網「電波の道」を早期に構築し、スマート東京を実現するため、通信事業者による5Gアンテナ基地局整備を支援してきた。さらに、令和5年8月に「つながる東京」の実現に向け、通信網の更なる整備を推進するため、通信手段ごとの整備の方向性や、2030年までの

ロードマップを定めた「『つながる東京』展開方針」を策定した。この方針により4G・5GやWi-Fi、衛星など様々な通信手段を適材適所で活用し、多様なアプローチにより、都内全域で、いつでも、誰でも、どこでも、何があっても「つながる東京」を早期に実現していく。



データ利活用

● データ連携基盤

官民の様々なデータの利活用を促進し、新たなサービスの創出を後押しするデータ連携基盤「東京データプラットフォーム(TDPF)」を2024年1月に稼働。

都・区市町村のオープンデータを始め、民間等からも有効なデータを順次搭載。行政機関・民間企業等の会員に対する伴走型サポート(アドバイスやマッチングなど)の実施や、多様な主体がつながるコミュニティの形成等を通じ、官民の様々なデータを連携させて新たなサービスの創出を後押ししていく。



● デジタルツイン

現実空間の建物や地形等を仮想空間に3Dで再現し、様々な分析・シミュレーションが可能となる「デジタルツイン」の実現に向けて、都庁が持つ様々な地理空間データを局横断的に連携するための「庁内データ連携基盤」の構築・運用を開始し、また、将

来的な社会実装に向けた検証・技術実証を行っている。令和4年度からは、多摩・島しょ部全域の3次元点群データを航空レーザ測量によって取得し、これをオープンデータ化するなど、デジタルツインのインフラとなるデータの整備を行っている。

イノベーションエコシステム

● スマートサービス 実装促進事業

スマート東京の実現加速のためには、都内で数多くのスマートサービスが実装され、都民がその利便性を実感する必要がある。

都では機動力のあるスタートアップ等によるスマートサービス実装を促進する取組を推進。令和4年度から、都と連携し、スマートサービスの実装を担うスタートアップ等を支援する民間事業者(スマートシティ実装促進事業者)を公募・選定しスマートサービスの実装に取り組む。令和4年度から3年間で計9者を公募・選定する計画で、地域・エリアと連携しながら、スタートアップによるスマートサービスのスピーディな実装の促進を図る。



● Access to Tokyo

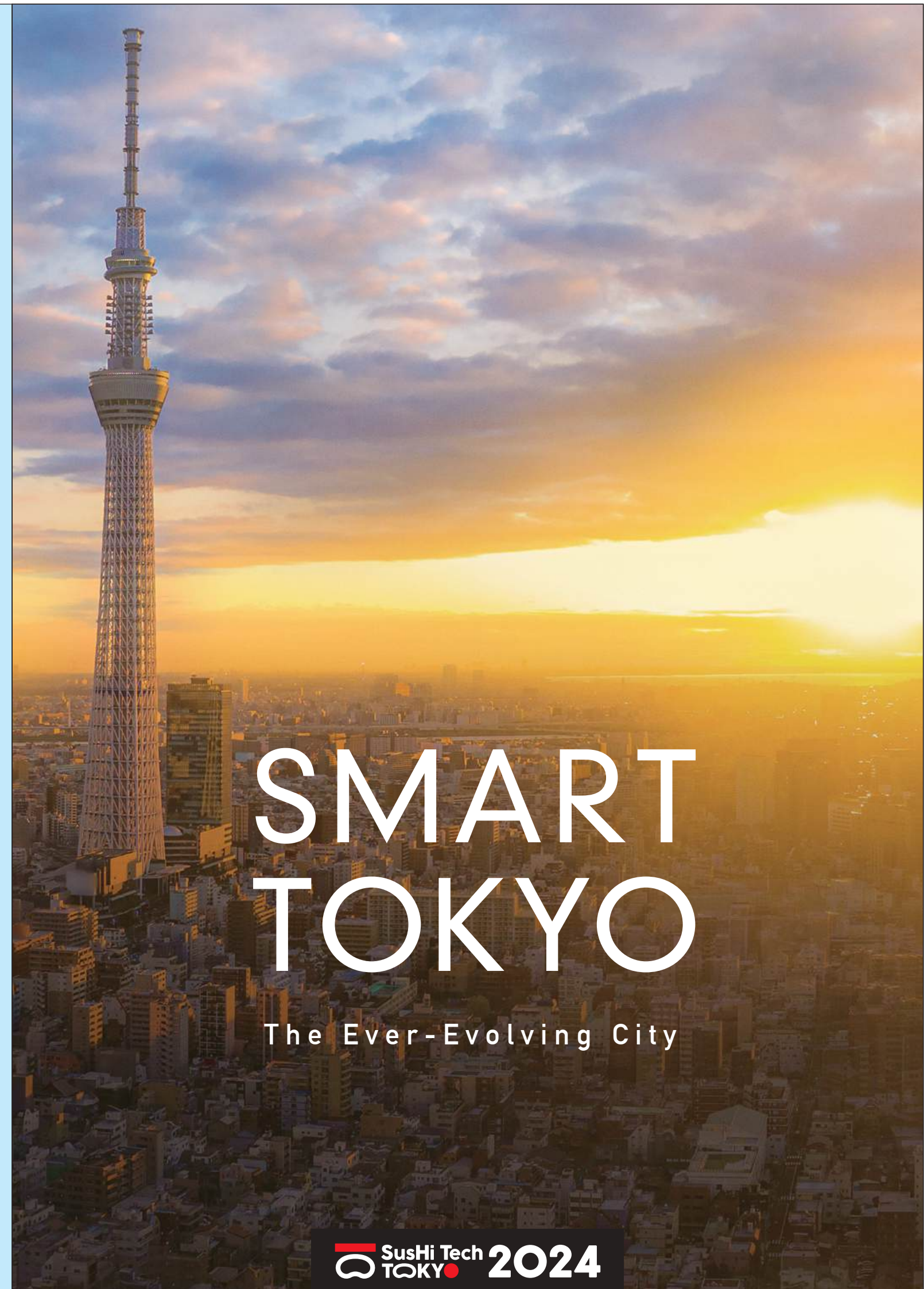
東京都は、「サステナブルな社会を実現するアジアのイノベーション・金融ハブ」を目指す取組の一環として外国企業誘致に取り組んでおり、外国企業の東京進出意欲を喚起する様々な支援策を提供している。「Access to Tokyo」は、海外5か所に設置された海外窓口であり、都の支援策や東京の魅力を外国企業に届ける情報発信と、現地ハブ組織等とのネットワークを駆使した企業発掘を中心に取り組んでいる。窓口はロンドン、パリ、サンフランシスコ、シンガポール、ベンガルールに設置されており、現地時間・現地語で対応。

● Tokyo Innovation Base

東京都は、東京からイノベーションを巻き起こすことを目指し、国内外からスタートアップやその支援者が集い、交流する一大拠点「Tokyo Innovation Base」(以下「TIB」という。)の構築を進めている。東京、全国、そして世界がつながる、イノベーションの結節点を目指す。多様な人々がつながりあい、革新的なアイデアやテクノロジーで社会を前進させる挑戦者を生み出す場となり、世界最高にスタートアップフレンドリーな東京を実現する。Tokyo Innovation Baseから、イノベーションの新たなムーブメントを起こす。



This leaflet is made of LIMEX, a new material mainly made from limestone.



スマート東京概要

東京都では、東京の進むべき道のりとして長期戦略の土台を示すため、令和元年12月に『『未来の東京』戦略ビジョン』を策定した。その中の基本戦略の一つとして、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」の実現を掲げるとともに、2030年に向けた戦略の一つとして「スマート東京・TOKYO Data Highway 戦略」を掲げている。令和2年2月には「スマート東京実施戦略」を策定し、「スマート東京」の実現に向け、生活のあらゆる場面において、デジタルの力で都民のQOLを高めるための施策を展開している。



スマートシティ東京のポテンシャル

世界の 巨大都市圏人口	Fortune Global 500 企業の本社数	世界の都市安全性指数 ランキング(医療・健康)	公共交通機関 利用率	5G人口カバー率	スマートシティ関連事業 予算規模
世界第 1 位 (約36百万人) 出典：国土交通省(2018)	世界第 2 位 (38社) 出典：Fortune Global 500(2017)	世界第 1 位 出典：Safe Cities Index 2021	世界第 1 位 出典：Global Power City Index	99.5% 出典：総務省(2022年度末)	169 億円 出典：東京都(2024年度)

スマート東京エリア



① 西新宿(新宿区)



乗客数世界一を誇る新宿駅の西側に位置し、東京都庁などの超高層ビルが立ち並ぶビジネス街。通信環境が整った西新宿で、産官学が連携し、自動運転やユニバーサルコミュニケーションなど様々な分野で先端技術を活用したサービスの都市実装に向けて取り組んでいる。また、エリアマネジメント団体とともに西新宿スマートシティ協議会を運営するなど、地元との合意形成を図りながら、地域に根差したスマートシティの取組を推進している。

② 大手町・丸の内・有楽町(OMY) (千代田区)



皇居と東京駅の間に位置し、一世紀以上に渡り日本の経済をけん引する企業が国内外を問わず立地してきた。時代の変化に合わせてその機能を進化させており、既存都市のアップデートとリ・デザインをビジョンに掲げ、エリアマネジメント型スマートシティの確立を目指し、エリアの価値向上に取り組んでいる。

③ 竹芝(港区)



港区東側の湾岸エリアに位置し、大規模な都市開発が行われているエリアである。訪問者の人流、属性のデータや、道路状況、交通状況、水位等のデータを様々な事業者が活用できるデータ流通プラットフォームを竹芝地区に実装することで、混雑の緩和、防災の強化などの実現を目指す。

④ 豊洲(江東区)



豊洲はマンションやオフィス、エンタメ施設等があり、住民やワーカー、来街者など多様なステークホルダーが存在する。その中で先進的技術と都市OS活用により様々な分野でサービス・ソリューションを提供し、人々のニーズ充足と満足度向上、まちの課題を解決するとともに、多様な施設・人が共存・共栄する「ミクスْتُユース型未来都市」の実現を目指す。

⑤ 南大沢(八王子市)



八王子市の南東部に位置し、多数の住宅地と学校・大学、商業施設を有する多摩ニュータウンを構成している。最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリアの確立を見据え、5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装・持続可能なスマートシティに向けた検討を進めている。

⑥ ベイエリア



港区、江東区に位置し、近年急速に開発が進み展示施設やホテル、商業施設が立ち並ぶエリア。「デジタルテクノロジーの実装」と「スタートアップの集積」を推進するまちづくりの取組を進めている。あわせて、ライブ・エンタメをはじめ、このまちの特色を活かし、様々な先端技術を活用した新たな取組を進めることで、まちの魅力を高め、賑わいを創出していく。また、エリアにおいて、50年・100年先を見据え、「自然」と「便利」が融合するサステナブルな都市を作り上げる「東京ベイeSGプロジェクト」にも取り組んでいる。

⑦ 島しょ



島内の住民・事業者と島外の関係人口・事業者のつながりを新たに構築し、デジタル技術を活用した地域主体の社会課題解決プロジェクトの創出・社会実装を推進するとともに、デジタル技術の活用により複数の移動サービスを最適に組み合わせシームレスな交通サービスの利用を促進することで、社会課題解決を地域主体で進めるモデルを創出する。

⑧ TAKANAWA GATEWAY CITY (港区)



2020年3月、49年ぶりに開業したJR山手線の高輪ゲートウェイ駅を中心とする大規模再開発エリア。駅とまちが一体となった「100年先の心豊かなくらしのための実験場」と位置づけ、CO2排出量実質0とする先進的な取組や、都市OSの整備によって、社会課題の解決や環境面での貢献施策を推進。

⑨ 渋谷駅周辺(渋谷区)



若者文化の発信地や観光地としての知名度と合わせて、Googleをはじめ、IT系企業が数多く立地するなど、多様性に溢れた街となっている。「ちがいを ちからに変える街」という未来像の実現に向け、デジタル技術やデータを活用して、子育て、教育、福祉、防災、文化、産業など幅広い領域で個の幸せと、地域の魅力向上を図っている。

⑩ 武蔵台(府中市)



東京都のほぼ中央に位置する約26万人が居住する府中市。多摩総合医療センターの所在地である武蔵台を中心としたエリアで災害時等の各医療機関等における医療資源情報をリアルタイムに可視化・共有可能なサービスを構築する。災害時など救命が必要な都民への医療提供の迅速化を図る。また、平常時においても病院DXを推進するフェーズフリーな機能を実装する。

⑪ 狛江市



東京都の多摩地域東部に位置する市。東京都23区部分にも接し、都心部へのアクセスの良さと、多摩川など自然が豊かな街である。データを収集し、統合、分析、可視化を行う都市OSの推進を実施。都市OSをハブに、コミュニティ活性や子どもたちの可能性を広げる住民サービスの提供、防災、地域振興にも力を入れる。

⑫ 多摩センター(多摩市)



東京都の中西部に位置する多摩市では、都市機能を集約した多摩センターを中心に街のスマート化を進めている。社会変化に応じてまちの使い方の想定・前提も変化している中、従来と異なるニーズに対応するため、「共感」をキーワードに、既存資源である都市基盤・インフラを使いこる「まちづかい」を目指し、デジタル、リアルでのプラットフォーム形成を推進する。

⑬ 東村山市



東村山市は、東京都の北西部に位置する。近年、市民のライフスタイルや価値観の多様化、人口減少をはじめとした様々な行政課題が顕在化。そこで、市民や事業者への迅速で効率的な支援の実現を目指し、「デジタル地域通貨」と「デジタル行政ポイント」の2つの機能を活用し、地域経済の循環・地域活動の促進を目指している。

⑭ 赤坂(港区)



港区の北部に位置し、府省が集結する霞が関エリアと隣接する 都内有数のビジネス街であり、都心勤務者が居住する住宅街でもある。平常時、災害時共に価値を持つフェーズフリーなエリアプラットフォームの構築を目指し、既存市街地において、「データ連携基盤による街の見える化」「公園や空地の利用・管理のDX化」「可搬式モジュールバッテリーの活用」に取り組む。

⑮ 高島平(板橋区)



東京都板橋区北部、荒川及び新河岸川南岸に位置し、高島平団地を中心に、生活利便性と豊かな自然を兼ね備えたエリア。外出しなくなる・移動しやすい安全なまちづくりを掲げ、センサーを用いた人流計測や、移動利便性向上に向けたモビリティの導入による街の利便性の創出、3D都市モデルを活用した避難シミュレーション等を実施し、災害への備えを図る。

⑯ 文花・京島・押上(墨田区)



東京都東部の墨田区に位置。東京スカイツリーをはじめ、観光地という側面と下町情緒を残すエリア。当エリアでは、公・民・学が連携し、住民を取組に巻き込みながら課題解決を図るため、まずは大学の誘致を行った。今後は、健康管理アプリの提供や公園管理プロジェクトを推進し、「住・職・学・遊が調和したまちづくり」を目指す。

⑰ 羽田イノベーションシティ(大田区)



日本の玄関口である羽田空港に近接し、「先端」と「文化」の2つをまちのコア産業として、商業・オフィスをはじめ、多くの特徴的な機能を内包した、大田区が公民連携で取り組む大規模複合施設。世界と地域をつなぐゲートウェイとしての役割とともに、最先端技術・サービスの実証に適したテストベッドとしてのスマートシティの構築等を通じて、「新産業創造・発信拠点」の形成を目指す。

Tokyo map

